

マンスリーサポーター

# まるクルー 募集中!

自分の人生を自由に広げていく力を  
地域から次世代に届けたい。  
その活動の仲間になってください!

まるオフィスでは、教育パートナー事業「じもとまるゼミ」(通称まるゼミ)を通して、次世代を担う子どもたちの将来の選択肢を広げていく活動を行っています。地域から起こしていく教育・学びの変革に向けて、皆さまからのご支援を受け付けております。

マンスリーサポーターになるには、こちらからお手続きください。毎月1,000円からお選びいただけます。

<http://maru-zemi.com/support/>



## 銀行口座

その都度、自由な金額でのご寄付もありがたくお受けしています。

気仙沼信用金庫 本店 (店番 001)  
普通預金 / 口座番号 0002218 / (社)まるオフィス

お振込者名の前に「キフ」とご明記ください。  
例「キフケンヌマタロウ」

## 代表がYouTubeはじめました!

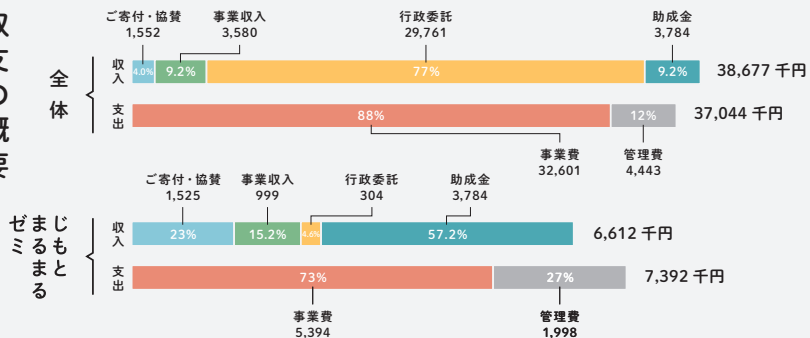
まるオフィスの活動  
レポートVlog



動画で活動の様子を伝えます!



## 収支の概要



マルクワ ANNUAL REPORT 2019

発行：一般社団法人まるオフィス  
デザイン：荒屋デザイン 小野寺真希  
お問い合わせ：メール・info@maru-office.com

当誌は、以下の事業・助成を活用し発行しています。  
平成31年度みやぎ地域復興支援助成金

発行日：2020年3月31日

住所：宮城県気仙沼市唐桑町宿浦 232-2

一般社団法人まるオフィス 年間レポート2019  
2019.04 - 2020.03



# マルクワ ANNUAL REPORT 2019



## “地元からわくわくを”

### VISION

津々浦々の地元から  
わくわくが輩出されている社会を

一般社団法人まるオフィスは、宮城県気仙沼市で活動するまちづくり会社です。東日本大震災を機に気仙沼に移住した若者と地元の若者が2015年春に立ち上げました。

2020年代に日本社会は都市集中型か地域分散型かの選択を迫られると言われてます。ローカルが元気であるためには、「学び」をアップデートする必要があります。絶対解を丸暗記する教育でも、まちの持続性のための教育でもありません。じゃあどんな学び？私たちは気仙沼といういちローカルから、教育や人材育成を通して、わくわくしている人が輩出される地元の仕組みづくりに挑戦します。

## OFFICE MAP

### 宮城県気仙沼市について

宮城県最北東端の太平洋沿岸に位置する気仙沼市は人口約62,000人のまち。豊かな自然の恵みや景観、そして世界に開かれた港町が築いてきた歴史や文化が受け継がれています。



### MISSION

地域ぐるみで  
次世代を育てる仕組みをつくる  
学びの仕掛人（ローカルマネジャー）  
になります

**1 こえじポスト**  
〒988-0534  
宮城県気仙沼市  
唐桑町宿浦232-2

こえじまるまろゼミ  
Takuma

**2 気仙沼市移住・定住支援センター MINATO**  
〒988-0018  
宮城県気仙沼市南町海岸1-11 PIER7 2F

Koya Kanako Emma  
Kodai Mikiko

**3 内湾ストップ**  
〒988-0017  
宮城県気仙沼市南町2-2-17付近

Shun Asuka Takuma  
Ken Waka Miho

### じもとまるまろゼミ

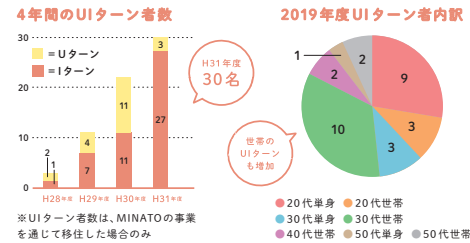
まるオフィスによる気仙沼の教育パートナー事業、通称まるゼミ。次の時代に求められる学びの探究と、地域と学校の協働の仕組みづくりを気仙沼からはじめています。

事業報告の詳細は次のページへ！

### 気仙沼市移住・定住支援センター MINATO

気仙沼に関わるひとりひとりのチャレンジをサポートするセンターです。移住定住、2拠点居住、プロジェクトへの参加など、地域の内と外をつないで関係を広げ、気仙沼に関わる人を増やしていきます。

### MINATOを通してのUIターン者数



### 移住モデル

**堀子翔平さん**  
広島県出身  
20代

**加藤尚さん**  
東京都出身  
30代

大学在学中、まるオフィス主催のインターンシッププログラムに参加。その後気仙沼を何度か訪れる中で移住を決意。2019年秋に移住し、デザイン事務所働く。

移住を考え始めたときに、MINATOを通して同年代のデザイナーと引き合わせる。

### 唐桑の移住者がNHK全国に！地域内でイベントを開催

2019年12月、NHK総合にて唐桑の移住者を取り上げた番組「明日へつなげよう」が放送。移住者と地域住民の声が紹介されました。併せてその番組プロデューサーを招いたイベントを開催。69名の方が「なぜ気仙沼に移住者が増えるのか」に興味を持って参加し、講演や対談を聞きながら、これからの気仙沼について考える機会になりました。

### ぬま大学

気仙沼に暮らす10～30代の若者を対象に、地域を知る・学びを得る・仲間と出会う、「やりたい」気持ちを応援するプログラムを実施。地域で活躍するまちづくりの担い手育成に取り組んでいます。

### ぬま大学

「気仙沼で何かやってみたい」をかたちにする半年間の実践塾。



### 過去最多の20名が受講！

第5期は子育て中のママさん、教員、外国語指導助手等、例年の2倍となる20名が集合。お互いに切磋琢磨しながらプランを作りました。



### ぬまトーク

気仙沼にまつわるテーマについて同世代で語り合うイベント。

### ぬま大学卒業生とコラボ！

ぬま大学卒業生と協働して「子どもにとって遊びとは？」「ゼロ・ウェイスト」をテーマに開催。新たな学びやつながりが生まれる場となりました。

### ぬま大学ラボ～気仙沼をつなげる30人～

企業・NPO・行政で気仙沼の未来を一緒に考える連続ワークショップ。

**2019年度から新しく始動！**  
Slow Innovation株式会社と協働で実施した新企画。立場や書きも多様な28名がつながり、対話を重ね、新たな8プロジェクトが誕生しました。

### フラッグシップ・インターン

約1ヶ月間、気仙沼の未来に向けて頑張る企業の現場に学生が入り込み、企業と一緒に課題解決に取り組むことを通じて、企業により活力が生まれ、学生は将来のために成長できる、そんな機会の提供を目指す実践型インターンシップです。

### 実践実績

夏期（2019年8月～9月）	春期（2020年2月～3月）
受入企業：全6社 参加学生：10名	受入企業：全6社 参加学生：10名





地元からはじまるわくわくする人生を。

# じもとまるまるゼミ

まるゼミは、公式サイトやSNSでも情報発信をしています。ぜひご覧ください!!

まるゼミ

Instagram Twitter YouTube LINE@はこちら

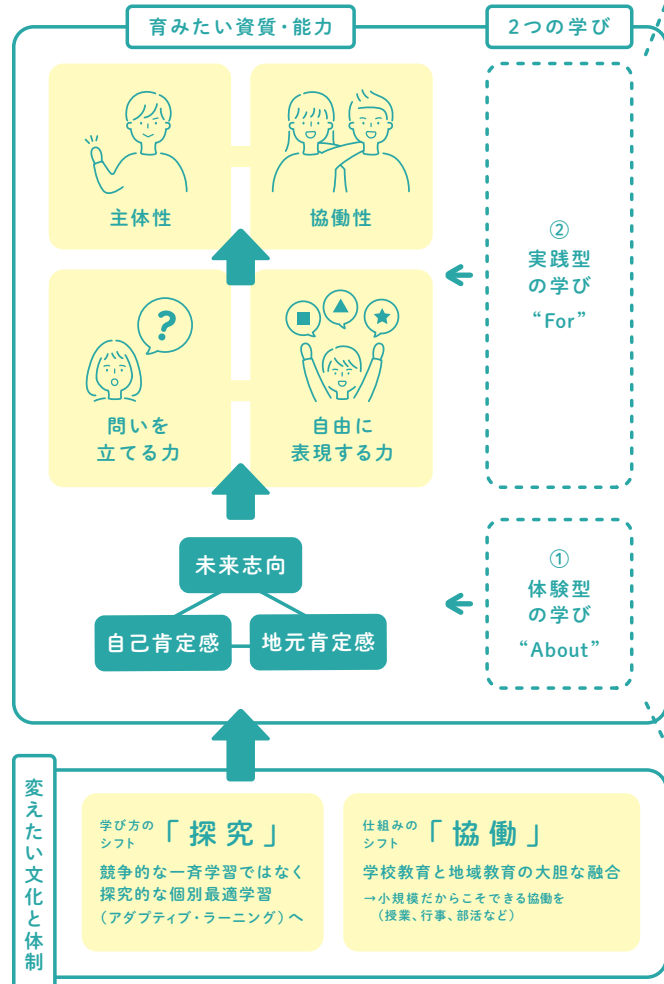
## まるゼミメソッド2020

まるゼミのねらいを「メソッド2020」としてまとめました!

### GOAL

### “わくわく”している人

= 人生の選択肢を自由に広げていける人



## まるゼミ事業一覧

縦軸に体験型→実践型の学び、横軸に地域⇄学校で、事業をプロットしました。

実践



気仙沼の高校生マイプロジェクトアワード  
**高校生ひとりひとりの挑戦を応援!**

高校生が自分だけの企画「マイプロジェクト」を磨いて発表するアワードを今期も開催(市主催)。他NPOと実行委員会を組み、夏合宿から約半年間、高校生の実践を応援しました。ついに全国高校生マイプロジェクト文部科学大臣賞受賞者を輩出。

高校生：14名 (1~3期計45名)



けせんぬま未来ゼミ  
**未来にわくわくしてる? オンライン企画も**

未来を変えるテーマやツールについて学び、高校生の未来志向を育む企画。認定NPO法人底上げと共催。年度末にはコロナ休校を受けオンライン化を敢行しました! 5Gやジェンダーなど今期もテーマは多彩。

実施：4回+ONLINE6回 / 中学生：79名  
ほか大人も参加



からくわのまるまるゼミ  
**地元に体感できる漁師体験、農家体験!**

すべてはこの事業から(4年目)! 唐桑町まちづくり協議会と共催。地元のくらしがい・はたらきがい伝える企画です。沖に出て魚介を獲る、お米を収穫する半農半漁の唐桑半島を思っきり体験しました。

実施：5回 / 中学生：24名



気仙沼高校フィールドワーク・アドバイザー  
**高校で研究活動の放課後相談会!**



気仙沼高校で「フィールドワーク・アドバイザー」として放課後相談会を校内で開催、生徒有志から探究活動の相談を受けています。地域とのつながりも果たしました。

実施：7回 / 高校生：40名

はやまのふもと  
**中高生のシェアスペースOPEN!**



唐桑町まちづくり協議会と協働で、中学生向けシェアスペースを唐桑半島にオープン。早馬山ふもとの空き商店(中学校すぐそば)を住民ボランティアらと改修しました。放課後自習やワークショップで活用。中学生と地域の出会いの場です。

WS参加&利用中学生：108名  
ほか大人も参加

唐桑中学校まちづくり学習会  
**総合学習のコーディネーター**



唐桑公民館から受託、「コーディネーター」として唐桑中の総合学習をサポート。全学年を対象に探究学習や地域住民とのマッチングを担当しました。また市内の小中教員に探究学習研修を複数校実施、事業の全市展開がはじまります。

中学生：全校生徒107名

気仙沼YEG地域教育  
**若手経営者と出前授業**



気仙沼商工会議所青年部(YEG)とコラボ事業。若手経営者らが中学校を訪問し、直接生徒たちに「はたらきがい」を伝える出前授業をしています。日本YEG東北大会準グランプリ受賞。

中学生：7校294名  
企業：41社(2期合計)

地域

体験

学校

まるオフィスを応援してくれている

## 仲間からのメッセージ

応援する理由や期待していることを聞いてみました！

パートナー企業の声



株式会社菅原工業  
代表取締役専務 菅原渉さん

震災前にUターンで帰ってきたときに、まるオフィスのみんながいてくれたらどうだったんだろう？とたまに考えます(笑)居場所が無かった訳ではないのですが、今の方がすんなりと溶け込めたんではないかと感じています。U・Iターンに留まらず、地元の子供達への教育など、地域の課題にしっかりと向き合い、新しい風を吹かしてくれるまるオフィスはこの町にとって必要だと思うので私は全力で応援します。

(期待していることとして)地元の子供達に地域で働く大人の背中をたくさん見せて欲しいです。気仙沼にも色々な仕事があり、仕事の数だけ働く人の想いがあり、会社の背景があります。教育の現場でそれが見せられれば、きっと子供達にも響くと思います。新しい感性・切り口と古き良き日本の教育スタイルを融合させ、数ある課題の解決へのチャレンジを期待します。



唐桑御殿つなかん  
女将 菅野一代さん

(まるオフィスを応援するのは)若者に對する期待だね。可能性しかない。表現は難しいけど「先行投資」だと思っています。感覚で生きてる私に分かることは「この投資は無駄ではない！」ってこと。捨てる気持ちで出さずじゃなくて生きてるお金だってこと。絶対何かの形で返ってくるって。何年もかけて、まるオフィスが関わった子どもたちがじわじわ育ってきてるもんね。

みんなコロナ騒ぎで家でスマホばかり見てるから、どんどんSNSで活動を発信してほしい。公開してくれば身近に感じられるから。可能性は高。

地域の中で活動する上で、波風立てないように動くんじゃなくて「歹でもやってみようぜ」という攻めの気持ちを忘れないでほしい。そういういい背中を子どもたちに見せてほしいし、そういう子を増やしてほしい。数少ない子どもたちの夢と希望を爆発させてほしい！

まるクルーの声



東京都在住  
30代男性

悲壮感やネガなオーラと無縁。「地元からわくわくを」を掲げる彼ら自身がずつとワクワクしている。周囲に溢れ出ちゃってる。シゴトが楽しい！っていう感情の“ダダ漏れ”が吸引力だと思う。新しいウイルスがこれまでの常識をひっくり返す中、それすらも楽しめちゃうメンタリティーが最大の武器。よろたのふおーえびーです。



仙台市在住  
60代男性

まるオフィスとの出会いは人生を変えた！常に何かを生み出そうとがいている姿は、自分自身を確かめる鏡だ。まるオフィスが次世代を担う子どもの育成を行っているように、大人も青年を育てる義務がある。自分の使命と感謝で微力ではあるが応援を続けている。



岡山県在住  
20代女性

3年間唐桑で共に活動し、地域教育は私の原点でもあり可能性を感じているので、その仲間たちの活動を心ばかりですが応援させてもらっています。そろそろ家族で唐桑にまた移住しようと思っているので、子どもたちが豊かに育つ環境と一緒に考えられたらなと思っています！



気仙沼市在住  
50代女性

誰かのために自分が支えている。そう思う事で、自分が一人じゃなく、つながっている幸せを感じます。今まで(震災以降)お世話になったまるオフィスのため、今度は自分の番です。子どもが背中を見ているから。まだまだ若い子には負けません。一生青春謳歌。

## 代表挨拶

### 気仙沼から日本の学びをアップデートする

2019年度はまるオフィスにとって「多様性」と「選択」の一年でした。2019年度のスローガンは「やっちゃえ まるオフィス～気仙沼イチ、自由で責任のあるプロフェッショナル集団へ～」でした。大家族的な思考はやめ、複業するスタッフも増えました。えまは別法人で「鶴亀の湯・鶴亀食堂」を立ち上げ、峻くんも新法人を設立。この春、移住・定住支援センター MINATO のセンター長も航也にバトンタッチします。私はというと2020年正月に「気仙沼から日本の学びをアップデート(革新)する」という目標を掲げ、教育パートナー事業「じもとまるゼミ」に特化して爆走しております。気仙沼の次世代の「学び」を地域ぐるみでつづけていくことを事業の柱に置き、MINATO やぬま大学(いずれも市の事業)につないで挑戦が連鎖していく仕組みをつくるのです。

そんな中、この新型コロナウイルスのパンデミックがやってきました。それぞれの事業が素早くオンライン化を画策し、「With コロナ時代」に備えています。9年前の大震災を思い出します。各々が慌ただしくアクションを決めていく、奇しくも「多様性」と「選択」の力が問われています。

一緒に活動してきた高校生たちに改めてヒアリングする機会を設けました。共通して口にするのは「地元気仙沼が好きになった」ということ。なんで？と問うていくと意外なことに「新しい挑戦を生み出す楽しさ」を味わっていることが分かりました。「不確かな未来にわくわくしている」私たちのような不確かな職(笑)の大人の存在が好影響を与えていたのです。郷愁的な愛着を生むのは、創造的な探究心です。

コロナウイルスはSociety5.0へと社会を駆り立てていくでしょう。そのときに、ローカルの大人ひとりひとりの姿勢を彼らは注視しています。今こそ、不確かな未来への「わくわく」を標榜するまるオフィスの真価が問われています。

社会の大転換を迎えるだろうと言われてきた2020年代が不安げに幕を開けます。でもまるオフィスは元気です！Withコロナ時代も協働していきましょう。これからもどうぞよろしくお願ひします。

一般社団法人まるオフィス 代表理事 加藤拓馬

